令和3年度入校

防衛大学校

National Defense Academy

受験案内

豊かな知識と、守る強さを学ぶ。

平和を、仕事にする。
陸海空自衛官募集

防衛省・自衛隊

平和を守る人へと成長するために、誇りと

防衛大学校は、日本はもちろん国際的な平和を将来にわたって維持するために、
そのリーダーとなれる人材を育成します。
充実した学習環境で学ぶのは、広い視野、科学的な思考力、豊かな人間性、
そして幹部自衛官にふさわしい精神です。
陸上・海上・航空各自衛隊の平和を守るリーダーとして、
あるべき基礎をひとつずつ、確実に身につけていくのです。

防衛大学校長
國分（こくぶん） 良成（りょうせい）

ごあいさつ

防衛大学校は、幹部自衛官を育成する日本で唯一の大学教育機関です。一般大学と同じ４年制で、卒業時には独立行政法人大学改革支援・学位授与機構から学位が授与されます。学生は人文社会科学系、理工学系など、多様な14分野のうちから１学科を専攻します。なかでも、戦史や国防論、戦略論などは一般大学には見られない、本校ならではの教育科目です。また、国際化にも力を入れていて、学生の約10パーセントが海外短期留学を経験できます。ぜひ、東京湾を望み、富士山を仰ぐ風光明媚な環境のもとで、リーダーとしての資質を育み、人間力、体力そして国際性を同時に身につけてください。

学生綱領である「廉恥」「真勇」「礼節」を刻んだ石盤

ともに歩む確かな道。

1.正門・守衛所
2.本部庁舎
3.多目的講堂
4.総合情報図書館
5.人文科学館
6.資料館
7〜11.理工学1〜5号館
12.土木・化学実験棟
13.社会科学館
14.理工学総合実験棟
15.防衛学館
16.総合体育館
17.球技体育館
18.武道場
19.訓練講堂
20.格納庫
21.競技プール
22.陸上競技場
23.ラグビー場
24.アメリカンフットボール場
25.サッカー場
26.ハンドボール場
27.野球場
28.第1学生舎
29.第2学生舎
30.第3学生舎
31.第4学生舎
32.学生教育1号棟
33.学生教育2号棟
34.学生教育3号棟
35.弓道場
36.浴場
37.学生食堂
38.学生会館
39.医務室
40.覆道射場
41.研究科学生舎
42.曹隊宿舎
43.給水塔
44.テニスコート
45.教育研究A館

理想の未来を叶えるために。4つの魅力

P4〜P16

1. 教育

育てるのは、
世界に通用する国防のリーダー

防衛大学校では一般大学と同等の教育に加え、
独自の防衛に関する教育など多様な授業を通じて、
将来国防の任につくリーダーとしての資質を磨きます。
また、国際交流活動にも重点を置き、
幹部自衛官として世界で活躍できる人材育成に
取り組んでいます。

P17〜P18

2. 環境

リーダーの資質を養うための、
選び抜かれた環境

学びの場として整備された施設や、
規則正しい生活が送れる学生舎など、
防衛大学校には学業や訓練に専念できる
環境が整っています。

3. 進路

身につけた知識と技術で開く、
確かな道

厳しくも有意義な学生生活を終えた後には、
自衛官任官への道が待っています。
陸上・海上・航空各自衛隊の幹部候補生学校に入校し、
職域に応じた専門教育を受けながら
幹部としての道を進むこととなります。
その後は幅広いフィールドでの活躍が待っています。

P21〜P22

4. 仲間

絆を深め、喜びを分かちあう、
かけがえのない仲間

全国から集まる同じ志を持った学生は、
卒業後も各地でつながるかけがえのない仲間です。
団体生活、校友会活動、年間行事は、
連帯感や友情を育む大切な場です。
同じ目標に向かう仲間との生活は、
その後の人生そのものを豊かにしてくれるはずです。

P23〜P24

1. 教育

育てるのは、世界に通用する国防のリーダー

Curriculum for leaders of national defense acting worldwide in the future

教育課程

防衛大学校の教育課程は、文部科学省の定める大学設置基準に準拠し、教養教育、外国語、体育、専門基礎の科目と専門科目（人文・社会科学専攻または理工学専攻）を一般大学と同じように教育するとともに、本校独自の防衛学（防衛に関する学術分野）の教育を行います。また、本科を卒業し、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構の行う審査に合格すれば、他の一般大学と同様に学士の学位が授与されます。

教育体系図

1学年		2学年		3学年		4学年	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期

●人文・社会科学専攻は専門基礎のすべて、理工学専攻は専門基礎の一部を履修します。
●教養教育、外国語、体育及び防衛学の一部を履修します。

●教養教育・外国語・体育・防衛学・専門科目を履修します。
●2学年進級時に人文・社会科学専攻は3、理工学専攻は11の専門学科に区分され、陸上・海上・航空各要員の配分が決定されます。
（学科区分は本人の希望と成績、要員配分は本人の希望と成績、適性を考慮して決定）

●理工学専攻は残りの専門基礎を履修します。

●卒業研究論文を作成します。

総合講座 ❶教養教育

❷専門基礎科目 ／ ❻専門教育科目

❸外国語科目

❹体育科目

❺防衛学科目

※ ［　］内は基礎教育・教養教育科目を示す。❶～❺は共通科目、❻は学科ごとの科目。

学科・科目の概要

人文・社会科学専攻	理工学専攻
人間文化学科 公共政策学科 国際関係学科	応用物理学科 応用化学科 地球海洋学科 電気電子工学科 通信工学科 情報工学科 機能材料工学科 機械工学科 機械システム工学科 航空宇宙工学科 建設環境工学科

学科共通

教養教育　外国語　体育　専門基礎　防衛学

※2学年進級時に、全14学科の中から本人の希望及び成績に応じて学科が区分されます。

カリキュラム

科目区分		人文・社会科学専攻				理工学専攻			
必要単位数		2学年進級時	3学年進級時	4学年進級時	卒業時	2学年進級時	3学年進級時	4学年進級時	卒業時
		35	75	114	152	35	75	114	152
区分別単位数	教養教育	3	8	18	24	3	8	18	24
	外国語 英語	6	12	-	12	6	12	-	12
	外国語 英語以外の外国語	-	-	-	2	-	-	-	2
	体育	3	4	5	6	3	4	5	6
	専門基礎	18	-	-	18	19	30	-	30
	専門	-	22	42	66	-	12	30	54
	防衛学	2	6	14	24	2	6	14	24

（令和元年度）

人間文化学科

多角的に異文化コミュニケーションを学ぶ

自衛隊は、国内外において多様な役割を求められ、国際的な視野を持ち活躍できる人材、国内でも激変する環境に的確に対処し、組織をリードできる人材が必要とされています。
人間文化学科では、他学科より外国語の授業を多く行い、より高度な語学力を養うとともに、思想・歴史・言語文化・心理学・地理学などさまざまな角度から知識や国際人としてのセンス、コミュニケーション能力を身につけます。

専門科目一例

●心理学概説
心理学の基礎及びその応用について幅広く学ぶことで、心理学的なものの見方、考え方、心理学の応用法を身につけます。

●宗教文化論
世界のさまざまな宗教を学問的にとらえる方法を学習し、グローバル社会に必要とされる異文化理解の基礎を学びます。

●現代思想論
欧米の近現代思想の主要潮流を学び、人間文化理解のための哲学的基礎を解明します。

●異文化コミュニケーション論
異文化間のコミュニケーションにおいて生起する問題ならびにその解決方法を考察していきます。

その他、学びのポイント

教室の講義以外に、校外研修ではモノや体験を通して楽しく学び、教官と学生の交流もさかんです。少人数のゼミナール形式の授業が多く、学術的な調査方法やプレゼンテーションのルールなど、個別的な指導を受けることができます。

公共政策学科

学際的な視点で国の政策を分析

公共政策学科は、経済学・組織論・法学・政治学・社会学などの学問分野の基礎知識を修得し、国の政策がいかにして形成され遂行されていくかを学ぶ学科です。
社会の情報化、グローバル化にともない、どの国もますます複雑な社会のニーズに対応できる適切かつ迅速な問題解決が求められており、学際的な視点での分析が必要となります。さまざまな科学的手法と方法論を修得し、現実の具体的な事例に即した分析を目標にします。

その他、学びのポイント

2学年及び3学年の「公共政策研究」では、論文や書物の読解力、作文能力、発表能力を各人の興味に従ったテーマを選び、少人数のクラスで徹底的に訓練します。
4学年の卒業研究では、その成果を論文にまとめるだけでなく校内外での発表会を開催します。

専門科目一例

●公共政策総論
公共政策の効果と評価の手法を修得することで、政策が国民生活にどのような影響を及ぼすかを学びます。

●社会調査法
社会調査の方法を、具体的に実習します。事例調査法、自由面接法、生活史法、質問紙調査法などの分析手法を学びます。

●組織と戦略
組織論的視点から政策及び戦略の策定の問題を学び、組織の問題が政策にどう影響するかを考察します。

●政策過程
外交防衛政策の立案から実施に至る過程を「流れ」として観察し、各国の政策に影響を与える歴史的背景について学習します。

Q&A

Q. なぜ「大学」ではなく「大学校」なのですか？

A. 所管が違うためです。

防衛大学校は、文部科学省所管の学校ではなく、「将来、陸上・海上・航空の各自衛隊の幹部自衛官となるべき者を養成するため」に防衛省設置法によって設立された、防衛省所管の学校です。国の予算で設立された学校であっても、文部科学省所管でないために「大学校」と呼ばれています。

人文・社会科学専攻の3学科は、いずれも21世紀の日本のニーズ、幹部自衛官としての基本的知識などを考慮した、防衛大学校ならではの学科です。教育は人文科学及び社会科学の専門分野を基礎的な科目から始め、徹底した少人数授業によって行います。また、将来社会生活で必要な知識が身につくよう、カリキュラムには理工系の科目も導入しています。

国際関係学科

国際社会の動きと日本の関わりを知る

国際関係学科では、国際情勢の動向と国際社会における日本の地位を理解し、将来の幹部自衛官として、国家の防衛と国際安全保障の両分野で貢献できる能力を養います。
複雑な国際関係の本質に多角的視点から迫るため、国際政治や国際法、外交史といった総合的な国際関係の理論や歴史、米国やヨーロッパ、アジアなど各地域固有の国際関係、さらに軍備管理論や危機リスク管理言論、危機管理政策など、多彩な科目を展開しています。

専門科目一例

●国際政治学
国際社会の特徴、平和や紛争の問題など、国際政治を学ぶために必要な基礎的な概念や理論を身につけます。

●政治外交史
近代から現代までの日本の対外関係を、国際環境の変化にどう対応したかという視点から概観します。

●軍備管理論
核兵器や生物化学兵器、小火器など軍備管理と軍縮をめぐる諸問題を、基礎から応用まで学びます。

●現代地域研究Ⅰ～Ⅷ
番号順に、アメリカ・ロシア・中国・東アジア・中東・朝鮮半島・大洋州・南アジアについて、それぞれの国・地域の今日の安全保障環境や日本との関係等を、歴史・政治・外交・経済・社会などさまざまな観点から学びます。

その他、学びのポイント

海外の大学教授や各国駐日大使による特別講演に加え、アメリカ、インドネシア、オーストラリア、韓国、カンボジア、シンガポール、タイ、東ティモール、フランス、フィリピン、ベトナム、モンゴル、ラオスなどから派遣された留学生との交流を通じて、幅広い視野を養うことができます。

在校生の声

いつも励まし合える大切な仲間がいる。

第213小隊
公共政策学科 2学年
上原 貴帆

被災地での救助活動を見て、以前から自衛隊に興味を持っていました。自分でさらに調べていくうちに、国防という任務や活躍分野の幅広さに魅力を感じて入校を決意したのです。最初は体力に自信がなく、「男子と同じ訓練についていけるだろうか…。」と不安でした。そんな私が頑張れるのは、いつも仲間がそばにいるからこそ。仲間の支えや励ましがあるから、挫けそうになっても諦めず、常に向上心を持ち続けていられるのだと思います。
２学年になって興味深い科目が増え、いろいろな発見がある有意義な毎日を送っています。将来は、幹部自衛官として、そして女性として、仕事と家庭を両立させ、豊かな人生を送ることが私の夢です。

卒業生の声

知識と経験すべてが将来に活かされる。

第７特科連隊
3等陸尉
佐藤 ひかる
（2014年度　国際関係学科卒業）

将来は安全保障の仕事をしたいと考えていた私は、陸上自衛隊広報センターでイラク派遣の展示を見て、自衛隊の任務に興味を持ち入隊を決意しました。訓練の計画と基盤の整備・調整から実施・指導までを行っていますが、成果が目に見えて現れた時は、自分の計画や指導が上手くできた手応えを感じます。防衛大学校での集団生活で後輩を指導した経験は、部隊配属後も服務指導に活かされています。「どう指導すれば相手に伝わるのか」を学生の時に学べたことはとても大きいですね。
防衛大学校は、幹部自衛官に必須の知識を学び、努力次第で人生の選択肢を大きく広げられる素晴らしい教育機関です。自分の可能性に挑戦してください。

※階級、所属は取材時のものです。

Q&A

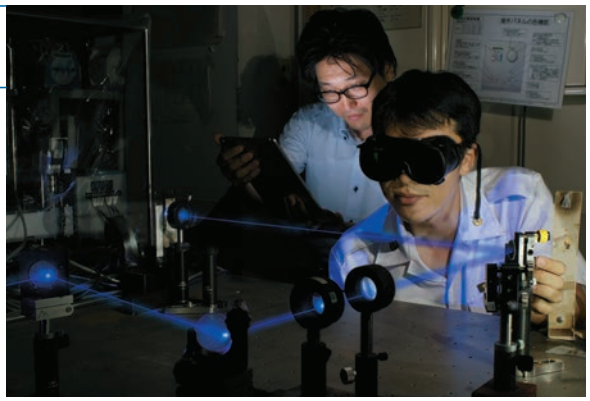
Q. 授業料はかかりますか?
A. かかりません。

防衛大学校学生は自衛隊員（特別職国家公務員）であり、学業、訓練に専念することが仕事です。このため入学金や授業料がかからないばかりか、毎月学生手当として給与が支給されます。したがって、一般大学とは違い自分の都合だけで授業や訓練を休んだりすることはできません。

応用物理学科

科学技術の基礎知識と論理的思考力を養う

自然法則と技術との橋渡しを担う応用物理学科では、「科学・技術全般に共通する基礎学力を持ち、かつ論理的思考能力のある柔軟性に富んだ人材育成」を教育理念とし、基礎的な内容から徐々に積み上げ、最終目標に達するカリキュラムを組んでいます。
自然法則の発見（理学）から技術的展開（工学）まで、知的体系を極める喜びを学生と分かち合えるような教育研究指導を通して「真のゼネラリスト」を育成します。



専門科目一例

●放射線計測
各種放射線の性質、検出手段及び放射線防護について学びます。

●回路論
電気回路に関する計算法や諸定理を理解し、電気・機械振動や波動の解析への応用や基礎的事項を学びます。

●連続体力学
縮まない流体の基礎を学び、流れ現象を理解し、巨視的な連続体力学の主要な法則、解析法を学びます。

●応用物理学実験Ⅰ・Ⅱ
応用物理学に関する基礎的・応用的実験を実施し、講義内容の理解を深めるとともに、基本的測定技術を身につけます。

その他、学びのポイント

4学年の卒業研究では、人間情報工学、高速弾道学、コンピュータシミュレーション科学、物性物理学、そして素粒子物理学など、基礎（理学）から応用（工学）まで幅広い分野からテーマを自由に選び、教官と1対1で卒業論文をまとめていきます。

応用化学科

化学を学び物質の持つ可能性を知る

応用化学科では、分析化学、無機化学、有機化学、物理化学のような基礎的な教育から始まり、先端科学の分野へつながる幅広い教育・研究を行っています。材料、資源、環境、生命、さらに防災や火薬の知識といった基礎から応用までの一貫した知識体系を網羅しています。各分野において活躍している教授陣の下で比較的早い時期に基礎をしっかり固め、幅広い化学の応用分野に対応できるようにカリキュラムが組まれています。また、実験や演習などの科目では、知識だけでなく計算や実際に物質を扱うことを重要視しています。

専門科目一例

●分析化学
溶解、分離、濃縮、元素の化学状態の分析、またその理論的基礎となる溶液内化学平衡の概念などを学びます。

●応用無機化学
遷移元素、電子不足結合、混合原子価化合物、錯体、無機溶液化学、機能性無機材料についての講義を行います。

●燃料化学
化石燃料の将来や有効利用について環境問題と関連して学習。燃料電池の種類や構造、実現性などについても考えます。

●細胞生物学
細胞内で起こっている出来事について学習。植物や微生物などを用いたバイオテクノロジーの技術についても講義します。

その他、学びのポイント

4学年の卒業研究では好きな研究室・教官を選び、約1年かけて与えられたテーマについて実験したり議論をしたりしながら、卒業論文を完成します。応用化学科は伝統ある学科ですが、常に新しいものを取り入れダイナミックに変化を目指す学科でもあります。

Q&A

Q. 学科はどのように決まるのですか？

A. 希望及び成績により決定します。

第2学年進級時、人文・社会科学専攻は全3学科、理工学専攻は全11学科の中から本人の希望及び成績に応じて学科が区分されます。

地球海洋学科

広大な視野で地球環境を学ぶ

地球海洋学科では、総合的な視野に立ち地球環境を理解できる人材を育成するために、地球惑星の自然現象について基礎と専門教育を行います。具体的な分野としては、大気の運動と天気予報を中心とした大気科学、航空管制のための航空気象、宇宙や地球惑星を調査する宇宙惑星リモートセンシング、海中音波の探知方式に関する海洋探知システムなどがあります。宇宙や大気、地球、海洋に関心がある皆さんを歓迎する、活気に溢れた若い学科です。

専門科目一例

●航空気象学
航空機の運用に関する気象現象、例えば離着陸時の気象現象、巡航時の気象現象などについて学びます。

●天文学
地球惑星を取り巻く宇宙環境、例えば太陽系、銀河と銀河団、宇宙の構造と進化などについての基礎を学びます。

●地圏科学
地球惑星の内部を探る地震学、マントル対流などの地球内部の変動、地球の熱的構造と進化についての基礎知識を学びます。

●海洋音響工学
海洋音響に関する基礎と応用、例えば波動方程式、水中音波の反射と透過、海洋音響トモグラフィーなどを学びます。

その他、学びのポイント

2学年では地球海洋学の基礎的な授業、3学年では、大気科学、固体地球科学、海洋音響工学などのさまざまな分野の授業を行います。4学年では台風、気象レーダー観測、都市の温暖化など自由にテーマを選び、観測や実験・解析・理論を通して教官と議論しながら卒業研究をまとめます。

在校生の声

先輩の意義ある指導が自分を成長させる。

第122小隊
応用物理学科　2学年
増川 奈々美

厳しい環境に身を置いて自分を成長させたいと思ったことが、入校を志すきっかけでした。先輩と同室の寮生活では気遣いの精神が自然に身につき、常にまわりを見て行動するようになりました。防衛大学校には指導してくださる先輩がたくさんいらっしゃいます。すべての指導に大切な意味があり、自分の成長につながっていることを実感しています。私も指導する立場になったら、後輩の「なぜ？」にちゃんと答えられる先輩でありたいと思っています。
入校前は不安でいっぱいかもしれません。でも、ここには尊敬できる先輩と信頼できる仲間がいます。たくさんの人たちとの出会い、ここでしかできない経験を通して、自分の目指すべき道が必ず見つかると思います。

卒業生の声

人生の大きな糧となる貴重な経験を。

第3施設大隊
1等陸尉
平間 祐貴
（2007年度　地球海洋学科卒業）

現在私は、演習場における道路整備などの各種土木工事や行事などの設備構築を行っています。第3中隊長として指揮をとる立場にありますが、上級者に対する気配り、下級者の心情把握など、防衛大学校時代の集団生活で身についたことが現在の職務に役立っていることを実感しています。
私が入校を決めたのは、安心して勉学に集中できる生活の基盤が整備されており、じっくりと将来設計ができると思ったからです。規則を守って自分を律することは、人間としての成長につながります。訓練と集団生活も人生の大きな糧となるでしょう。一般の大学では経験できない貴重な4年間になると思います。ぜひ期待してください。

※階級、所属は取材時のものです。

Q&A

Q. 定期試験はいつですか？

A. 前期と後期の各学期末に行われます。

学期末（例年前期が10月上旬、後期が2月末）にそれぞれ1週間行われます。試験の結果は、秀・優・良・可・不可の5段階で評価され、第1学年では35単位以上取得できないと留年になり、同じ理由で2回留年すると退校になります。

電気電子工学科

21世紀を支えるエレクトロニクスを学ぶ

電気電子工学科では、エレクトロニクスの基礎から最先端の応用までの知識を系統的に修得できるよう、教育を行っています。
21世紀に入り、エレクトロニクスは私たちの生活をますます豊かなものにしています。自衛隊においても高度なエレクトロニクスを利用した装備品が随所に使用されており、学んだ知識を応用して将来の防衛システムの構築に貢献できる幹部自衛官の育成に力を注いでいます。

専門科目一例

●電気数学
フーリエ解析・変換による信号の周波数スペクトル解析法、線形システムの過度現象と周波数特性の解析法を学びます。

●制御工学Ⅰ・Ⅱ
ロボットに使われるモーターの位置制御系が構成できることを目標に、フィードバック制御系の設計や解析法を学びます。

●電子デバイス
トランジスタ、LED、液晶ディスプレイなどの電子デバイスの基礎理論と各デバイスの特性、その応用を学びます。

●電気エネルギー工学
エネルギーの基本形態、エネルギー変換、電気エネルギー発生のしくみや貯蔵方法、輸送方法を学びます。

その他、学びのポイント

演習や実験を効果的に配置することにより、エレクトロニクスの基礎がしっかり学べるよう配慮されています。
また、指定した科目の単位を修得することで、第1級陸上特殊無線技士や第3級海上特殊無線技士の資格を得ることができます。

通信工学科

情報通信社会の基盤技術である通信を学ぶ

通信工学科では情報通信工学の基礎的・専門的教育を通じて、高度情報通信社会の中心となっている通信の幅広い分野に貢献できる優れた人材の育成を目標にしています。
通信は民間同様に自衛隊においても不可欠の存在です。卒業後は、陸上では災害時の衛星通信、海上では護衛艦のレーダー機器及び衛星航法、航空ではレーダー及び航空無線機器運用の場において能力を発揮できます。

その他、学びのポイント

電磁気学や電子回路理論など、通信工学の基礎からIP技術や無線通信など応用分野まで幅広く学べます。また、特定の科目を履修することにより、第1級陸上特殊無線技士及び第3級海上特殊無線技士の免許取得の資格の他、第1級陸上無線技術士及び電気通信主任技術者の国家試験における一部受験科目免除の資格が得られます。

専門科目一例

●光通信工学
光による情報伝達の原理、光システムを構成する半導体レーザ、光増幅器などの構成要素について学びます。

●光波工学
屈折・干渉・回折などの光学現象とその応用、最新の光エレクトロニクス技術などについて学びます。

●通信計測
各種測定器やセンサの基本的な動作原理とその使用法を学び、電磁気量を正確に測定・評価する能力を養います。

●コンピュータ工学
情報理論やディジタル回路などのコンピュータ工学の基礎知識を習得し、情報通信ネットワーク技術を学びます。

Q&A

Q. 自宅通学はできますか？

A. できません。

学生は全員入校と同時に学生舎で生活することが義務づけられ、自宅から通うことはできません。学生舎には自習室、寝室、集会室、シャワー室、洗濯室等の設備があります。自習室と寝室は8人部屋（基準）となっており、第1学年から第4学年までの学生が同じ部屋で一緒に生活します。

情報工学科

情報化社会の仕組みを科学する

情報工学科では、情報の収集から整理・蓄積、ネットワークを利用した交換までを、最新の技術や考え方を利用してより速く少ない資源で実現することを研究しています。
プログラミングなどのソフトウェア論、知識情報処理などの高次ソフトウェア処理からコンピュータシステムの応用、その基礎となる数学にいたるまで、広範な分野の教育を総合的に行います。

専門科目一例

●プログラミング言語
アプリケーションを開発するために必要なプログラミング言語の基礎を学びます。

●情報セキュリティ概論
コンピュータシステムや大切な情報を保護するためのセキュリティ関連技術を学びます。

●インターネットメディアコミュニケーション
ネットを媒介としたコミュニケーションの特性を、さまざまな事例を通して理解します。

●数学通論
数学を正確に学ぶための基礎となる「集合論」を学びます。知識の量を増やすより「深く考える習慣をつける」ことが目標です。

その他、学びのポイント

2学年ではコンピュータの基礎を、3学年ではアルゴリズム論や数値解析などを学習し、コンピュータを使いこなして問題を解決する能力を高めます。4学年ではそれまでに学んだ知識と各自の興味に基づいてテーマを絞り、卒業研究を行います。

在校生の声

**目標に向かって
全力投球できる場所。**

第213小隊
情報工学科 2学年
竹井 優太

中学生の頃から人の前に立つことが多かった私は、大勢を指揮する幹部自衛官に憧れて入校しました。校則のない自由な高校の出身だったので、厳しい規則に適応できるのか不安でしたが、明確な目標を持っていれば規則を守る意味が分かってくるので、すぐに馴染むことができました。さまざまな価値観を持った仲間や先輩との集団生活は、コミュニケーション能力を高められるだけでなく、一生続く友情も得ることができます。
防衛大学校の最大の魅力は、4年間の生活すべてが将来の目標に直結していること。勉強に、訓練に、スポーツに、全力で打ち込んでください。毎日成長する自分を実感できるはずです。

卒業生の声

**実践的に学べる
自衛官に必要な能力。**

第3航空隊
1等海尉
中十 康太
（2009年度　電気電子工学科卒業）

防衛大学校には他にはない特色が多くあります。特に学生舎での集団生活は、先輩や後輩との関わり、同期との切磋琢磨を通して自分を高める貴重な環境でした。また、学生全員で行う各種行事の運営では、計画調整といったマネジメント能力、リーダーシップやフォロワーシップを習得。将来、幹部自衛官にとって必要な能力を、実践的に学ぶことができるのです。
私は航空部隊の戦術航空士として、日本の安全保障の一端を担っている誇りを感じながら、周辺海域の警戒監視や災害派遣などの任務に従事しています。今後、自衛隊の海外活動はさらに増加し、防衛大学校の重要性はさらに高まっていくと思います。皆さんとともに国際的に活躍できることを願っています。

※階級、所属は取材時のものです。

Q&A

Q. 外出や外泊はできますか？

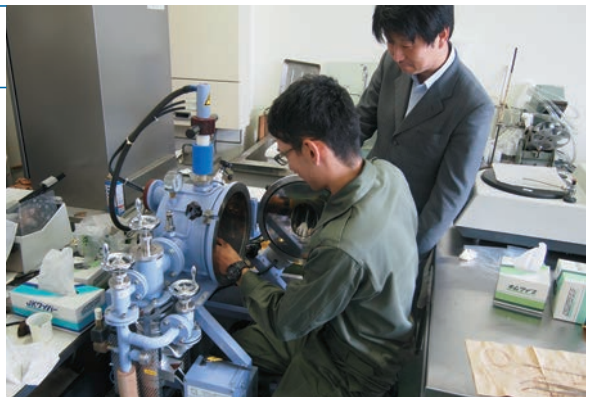
A. 平日の外出・外泊はできません。

土曜日は8:00～23:20まで、日曜日と祝日は8:00～22:20まで外出ができます。第2学年以上は、回数に制限はありますが週末の外泊も可能です。第1学年は特別な理由（校友会活動など）により必要と認められたときに限り、外泊することができます。

機能材料工学科

材料を制する者が科学技術を制する

機能材料工学科は、材質、すなわち材料の特徴ある性質を実験と理論から知り、利用しようとする分野を系統的に学習することのできる学科です。
色々な材料に共通の、開発から評価、応用までの基本について広い視野を身につけ、さらに金属・半導体・セラミックス・高分子など、個別の材料の特性について学びます。材料に何ができ、何が限界かを学び、さらに材料のもつ素晴らしい可能性を体得することを目的としています。



専門科目一例

●電磁理論
電磁気学に続けて電磁誘導や動電磁界について学習し、電磁波の基礎を学びます。

●材料力学
種々の用途に使われる材料の変位や変形について学びます。

●材料評価学
各種材料の特性の評価法及び原理について学びます。

●結晶工学
原子配列の対称性と固体の結晶構造を理解し、結晶による回折現象の基礎を学びます。

その他、学びのポイント

4学年の卒業研究では、圧力ー電気変換材料、光ー電気変換材料、無機薄膜や有機単分子膜の機能の追求、軽量で高強度や機能を有する複合材料の研究、耐熱3000℃の炭素材料の研究などについて自由にテーマを選び、教官とマンツーマンで研究を進めます。

機械工学科

日用品からロケットまで「もの創り」を学ぶ

機械工学は、私たちの身の回りにある家電製品をはじめ、コンピュータを組み込んだインテリジェント機器、エンジンや自動車などの工業製品からロケットなどの宇宙システムまで、あらゆる機械構造システムを生み出す「もの創り」の学問です。
熱、流体、強度などの基礎科目から、エレクトロニクス、メカトロニクス、新素材などの先端科目まで体系的に学び、創造的かつ多元的な考え方を持つ人材を育成します。

その他、学びのポイント

カリキュラムでは、コンピュータ支援教育等の洗練された手法を活用することにより、常に機械に関する最新の高度な専門的知識を修得できるよう配慮しています。
知的創造力に富み、かつ合理的で柔軟な思考力を養うことは、卒業後のさまざまな活動において宝となります。

専門科目一例

●流体力学
流体の物理的性質を理解し、空中、水中を推進する原理を学び、流体からエネルギーを取り出す原理を学びます。

●制御工学
動的システムの基礎概念について、フィードバック系を中心に周波数領域での取り扱い方を修得します。

●機械設計製図
基礎科目で学んだ知識を駆使して設計計算を行い、コンピュータによって設計図面に表現します。

●基礎機械実習
各種の工作機械や生産設備を使用し、材料が原型形状を変えながら機械部品や製品になる工程を体験します。

Q&A

Q. 学生隊とは何ですか？

A. 学生により構成される学生組織です。

防衛大学校の学生は、全員が入校と同時に学生隊に属し、学生舎において4年間の共同生活を送ることになります。学生隊とは、学生の共同生活を円滑にし、自律心を養うため全学生により構成される学生組織です。学生は決められた日課に従い、規律正しい生活を送ります。また、各学年に用務が振り分けられており、一例として学生舎の清掃（朝・夕）、食事当番などがあります。最初は時間に追われて不自由を感じるかもしれませんが、そうした生活をすることで知らず知らずに幹部自衛官としての資質が養われていきます。

機械システム工学科

機械システムを学び最新の装備を使いこなす

機械システム工学科では、材料力学、機械力学、流体力学、熱力学、制御工学など、機械工学の基礎教育を共通的に行った上で、選択によって最先端の機械技術から船舶・海洋工学にわたる幅広い教育を行い、その応用・展開力を育成しています。
本学科の卒業生は、3年間の教育で培われた専門的知識を活かし、自衛隊が保有するさまざまな装備の運用や研究開発の分野で活躍しています。

専門科目一例

●機械工作
「物作り」の中心課題の一つである、機械工作の理論と実際について分かりやすく教育します。

●船舶工学
浮体静水力学、復原・動揺性能、船型学及び船体構造のそれぞれについての知識を修得します。

●ロボット・メカトロニクス
ロボット工学の基礎知識について、ロボットの機構、制御から最先端の知能ロボットまで幅広く修得します。

●コンピュータ応用解析
C言語及びmathematicaを用いてプログラミングの考え方を身につけ、数値計算のための手法を学ぶことを目標とします。

その他、学びのポイント

本学科では多関節ロボットなどに関する最先端の教育研究も行っており、将来の技術革新に対応できる知識と発想力を育んでいます。卒業研究では研究科の学生と一緒に最新の研究課題に取り組み、技術的諸問題の解決法と研究成果をまとめて、プレゼンテーションを行う能力を養います。

在校生の声

恵まれた環境の中で積極的な４年間を。

第312小隊
建設環境工学科 2学年
氷見 爽

両親共に自衛官である私は、防衛学など防衛大学校でしか学べない教育内容に早くから魅力を感じていました。2学年から専門科目が始まり、訓練が本格的な内容になるにつれて、ますます楽しく充実した毎日を送っています。寮生活の規則や日課に不安を感じる人も多いかと思いますが、規律を身につけるチャンスだとプラスに考えれば苦になりません。
防衛大学校は、ここでしか経験できないプログラムが豊富です。この恵まれた環境の中で、４年間をどう過ごすかは自分次第。私はこれからもいろいろなことに積極的に挑戦し、真剣に取り組んで、自分が思い描く理想の自衛官に近づきたいと思っています。

卒業生の声

恵まれた環境の中で多面的な成長を。

在オーストラリア日本国大使館
防衛駐在官
1等空佐
木村 雄紀
（1998年度　精密機械工学科卒業）

中学生の時に航空祭を訪れ、戦闘機パイロットに憧れを抱いたことが自衛官を目指すきっかけでした。現在は、日本にとって「特別な戦略的パートナーシップ」にあるオーストラリアの国防軍と日本の自衛隊が、多種多様な分野で協力していくための協議や調整を行っています。学生時代に国際感覚や語学能力を身につけるために多数の国際交流プログラムに参加しました。この経験は現在の私の職務に活かされていると思います。
防衛大学校には、幹部自衛官に必要な知識・技能・体力はもちろん、社会人としての教養、仲間との出会いなど、成長する機会が豊富に用意されています。恵まれた環境の中で、自分の能力を多面的に伸ばしてください。

※階級、所属は取材時のものです。

Q&A

Q. 体力に自信がないのですが、大丈夫ですか？

A. 大丈夫です。

幹部自衛官には高いレベルの体力が必要です。学生は体育、訓練及び校友会活動を通じて強靭な体力を向上していくこととなります。なお、体力の素養の低い学生に対しては、科学的かつ合理的なプログラムが組まれています。

航空宇宙工学科

大空を飛ぶための知識と技術を学ぶ

航空宇宙工学科では、大気圏内外を飛行する航空機、飛翔体、ロケットなどを対象とした9学問分野を展開、それぞれの分野における基礎的学理を系統的な講義、実験、演習プログラムにより教育します。
多くの卒業生が、操縦、整備、技術開発などの分野で活躍しており、飛行機が好きな人、パイロットになりたい人、さらに宇宙を含めた航空宇宙技術に興味を持っている人にとって、本学科は実のある学習の場を提供することでしょう。

専門科目一例

●航空熱力学
燃料の燃焼で発生する熱エネルギーによって生まれる動力や推進力の仕組みについて学びます。

●航空機構造力学
飛行中に受ける荷重やそれに耐えるための飛行機の構造様式について学びます。また、骨組み構造の基礎も勉強します。

●宇宙航行理論
宇宙船・人工衛星・宇宙ステーションの軌道などを実際的に分かりやすく、宇宙工学の基礎知識として学びます。

●ヘリコプタ工学
ヘリコプタとはどんな航空機なのかを、ロータの空気力学を重点に飛行機と対比しながら理解します。

その他、学びのポイント

航空宇宙工学は多くの学問分野を統合して、航空機などの飛行のためのシステムをまとめ上げることを目的とします。
このため空気力学、航空原動機学、航空機力学、ヘリコプタ工学、飛行制御、航空機構造力学、宇宙航行、推進工学、航空宇宙工学設計の9分野を展開しています。

建設環境工学科

よりよい生活環境を実現する学問

建設環境工学とは、種々の公共施設を計画・設計・建設・管理することで、よりよい生活環境を実現する「市民のために地球を造形する総合工学」です。そのためには工学技術はもちろん、地形・地質・気象・海象などの自然現象の理解、そこに暮らす人々や地球環境への配慮が必要です。
本学科では、基礎科目から応用科目までを体系的に展開し、高い専門知識や技能、ゼネラリストとしての柔軟な思考能力を有する人材を育成します。

専門科目一例

●水理学
水の災害から生命や財産を守るために水を利用しながら、その性質や運動を理解します。

●鋼構造学
規模の大きな構造物、複雑な構造物などに用いられる鋼構造の特徴と、その設計法について理解を深めます。

●大規模災害概論
地震・台風・豪雨・火山等の自然災害のハザードを理解し、自然災害を受ける社会及び社会システムの被害特性について修得します。

●土質力学
土の物理・化学的物質、分類法、地盤の強度、土中の水の流れ等を扱います。

その他、学びのポイント

幹部自衛官として21世紀の日本の将来を担い、幅広く活躍するため、道路、橋梁、港湾などの建設や、国土・都市計画に関する理論及び実際を学習する土木工学、自然災害から人命を守る防災工学や、社会生活にかかわる環境工学など幅広い教育を行っています。

Q&A

Q. 要員配分とは何ですか？

A. 卒業後に陸海空自衛官のうち、どの自衛官となるのかを決めることです。

第2学年進級時に、本人の希望や適性、成績などを踏まえた上で決定します。陸上・海上・航空の要員配分の割合は概ね2：1：1です。決定後は、それぞれの要員別の専門教育や訓練を受けることになります。

共通科目

本校では、将来の良き社会人として身につけるべき教養、国際社会に対応する語学力、幹部自衛官として必要な体力の育成及び防衛に関しての授業科目を4学年にわたって履修します。多様な授業を通して、柔軟な思考力と豊かな教養を持つバランスのとれた人格形成を目指します。

教養教育

社会人・職業人として必要な教養と、大学生に求められる基本的な知識を学びます。将来の幹部自衛官には広い視野と豊かな創造力、バランスのとれた判断力が求められるため、一般大学に比べ教養教育を重要視しています。
科目内容に基づき必修・選択必修・選択の3種類の科目に分け、4学年までに合計24単位履修します。

外国語

英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、朝鮮語、アラビア語及びポルトガル語の8言語の教育を行います。
英語は必修で12単位履修し、e-learningや外国人教官による授業も取り入れて英語能力を養成します。その他の外国語についてはいずれか一つを選択し、2単位履修します。

体育

体育教育は、将来幹部自衛官として要求される強靭な体力、技能及び円満な社会性を養成することを目的として行っています。修得単位は体育理論2単位、体育実技4単位の計6単位です。
安全で科学的・合理的な指導を受けることができ、施設などのトレーニング環境も整っています。

専門基礎

人文・社会科学専攻では歴史学、人間学、政治学、経済学、憲法、国際法概論など18単位、理工学専攻では数学、物理学、化学など30単位を、1・2学年で履修します。

防衛学

安全保障、防衛、戦争、軍隊及び軍と社会の関係などを研究する学問分野です。
主な科目は防衛学基礎、国防論、軍事史序論、戦略、作戦、軍事と科学技術、統率及び国際情勢と安全保障などで、他に少人数のゼミナール形式で防衛に関する諸問題を研究する、防衛学特論も行っています。

Q&A

Q. 校友会活動とは何ですか？

A. いわゆるクラブ活動のことです。

校友会活動とは、「教育・訓練」及び「規律ある団体生活（学生舎生活）」と並んで本校教育方針の三本柱として位置付けられるものです。よって、原則として全員が運動部に加入するとともに、文化部活動も活発に行われています。これらの活動に必要な施設・器材も逐次整備・拡充が図られています。

訓練課程

「自衛官として必要とする基礎的な訓練事項について錬成し、幹部自衛官としての職責を理解してこれに適応する資質及び技能を育成する」という方針に基づいて行われます。

1学年時は陸上・海上・航空の要員が決まっていないため、全員が同じカリキュラムに基づき共通訓練を行います。
2学年以降は指定された要員ごとに専門訓練を行います。ただし一部の訓練（スキー訓練、硫黄島研修等）は要員に関わらず共通的に行います。

第1学年

共通訓練

敬礼など防大で生活をしていく上での基礎となる訓練や射撃訓練、水泳訓練、行進訓練や、陸海空自衛隊の研修を行います。

第2学年

共通訓練	陸上要員訓練	海上要員訓練	航空要員訓練
積雪地の部隊等で勤務する場合に備え、約1週間のスキー訓練を行います。	校内及び自衛隊演習場で訓練を行い、陸上自衛官として必要な戦闘・戦技の基礎を習得します。	校内での訓練及び乗艦実習等を通じて海上自衛官として必要な知識・技術の基礎を習得します。	校内での訓練及びグライダーを使用した訓練を通じて航空自衛官として必要な知識・技術の基礎を習得します。

第3学年

共通訓練	陸上要員訓練	海上要員訓練	航空要員訓練
1泊2日で硫黄島を訪れ慰霊を行うとともに、過去の戦跡について、学びます。	約1カ月間、隊員と起居を共にしながら部隊の実情を学びます。	乗艦実習等を通じて海上要員としての技量を向上させます。	航空団等を研修するとともに、戦闘機の体験搭乗等を行います。

第4学年

共通訓練	陸上要員訓練	海上要員訓練	航空要員訓練
入校直後の1学年に対する教育について教官（自衛官）の補佐をしつつ、教育する側の立場を学びます。	攻撃や防御における小部隊の基本的行動や指揮法を習得します。	機動艇による東京湾内の巡航訓練を学生が主体となって行います。	グライダーを使用して航空機の運用に必要な訓練を行います。

Q&A

Q. 訓練はどれくらいするのですか？

A. 週1回の課程訓練の他、集中的に行われる定期訓練があります。

訓練には課程訓練と定期訓練があります。課程訓練は週2～4時間、主として校内で行います。定期訓練は一定期間集中して行うもので、校内のみならず自衛隊演習場、部隊等で行います。例えば春季定期訓練は約1週間、夏季定期訓練は約1カ月です。課程訓練と定期訓練を併せて、4年間で約1005時間が配当されています。

国際交流

防衛大学校では、幹部自衛官として必要な国際的視野に立脚した識見を養うとともに、伸展性のある資質を育成するため、積極的な国際交流を図っています。具体的には、学生を海外の軍士官学校へ派遣する留学制度があるほか、海外留学生・研修生の受け入れなども行っています。

留学制度

派遣

短期（1～3週間）

3学年の学生を対象に、成績や語学力を考慮してアメリカ・シンガポール・タイ・中国・ブラジル・カナダ・インド等の各軍士官学校に派遣。

長期（約4カ月）

3学年を対象に、成績や語学力を考慮して1学期間、留学制度により、アメリカ・フランス・ドイツ・オーストラリア・カタール・韓国等の各軍士官学校に派遣。

長期（約1年間）

3学年の学生を対象に、成績や語学力を考慮して航空要員から1名、韓国空軍士官学校に派遣。

受け入れ

留学生受け入れ

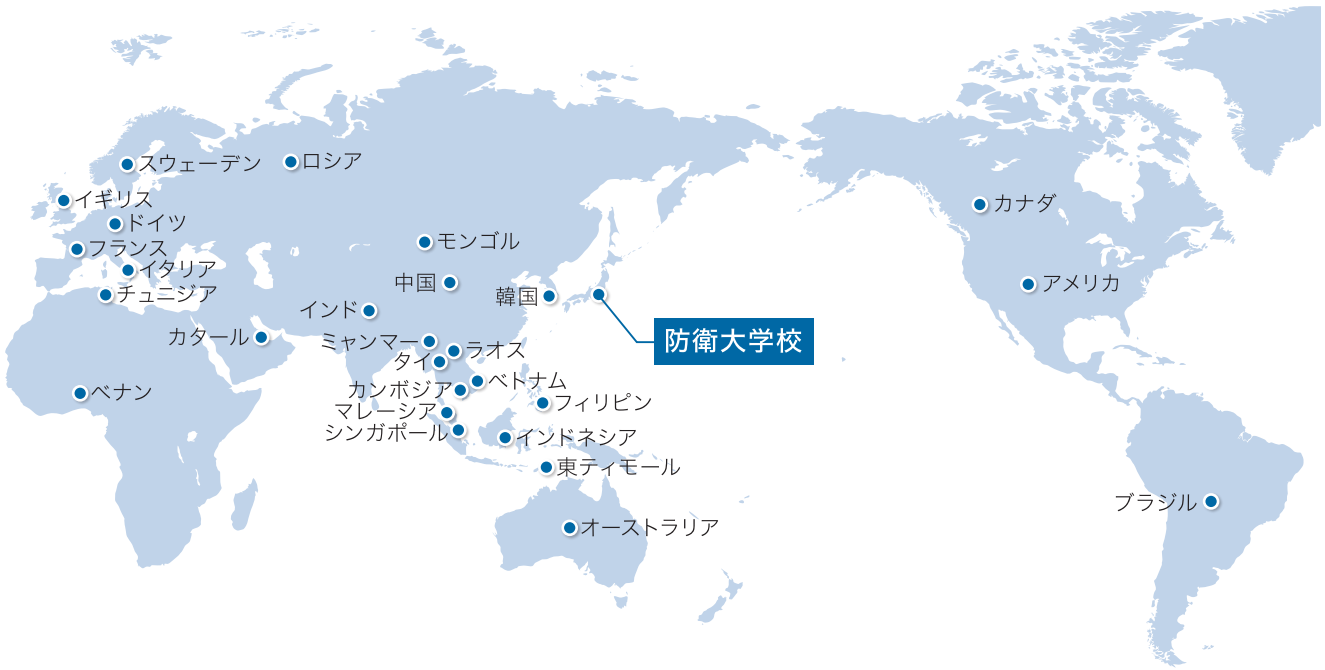
インドネシア・韓国・カンボジア・タイ・東ティモール・フィリピン・ベトナム・モンゴル・ラオス・ミャンマー等の士官候補生を留学生として受け入れ、日本の学生同様に教育訓練を行っています。（1年間の語学研修を含め5年間）
また、アメリカ・オーストラリア・フランスをはじめ1学期間の留学生も受け入れています。

研修生受け入れ

アメリカ・オーストラリア・韓国・シンガポール・タイ等の各士官候補生が毎年研修にきています。

国際士官候補生会議（ICC）

ICCとは国際士官候補生会議（International Cadets' Conference）のことです。防衛大学校主催により、諸外国の士官候補生を招へいして国際会議を開催し、国際情勢及び安全保障に関する討議などを行い、各国とわが国の将来の安全保障につながる信頼関係の促進を目的としています。
アメリカ・イギリス・イタリア・インド・インドネシア・オーストラリア・カナダ・韓国・スウェーデン・タイ・中国・チュニジア・ドイツ・フィリピン・フランス・ベナン・マレーシア・ミャンマー等20カ国から士官候補生を招へいし、7日程度の日程で行っています。



Q&A

Q. 留学制度はありますか？

A. あります。

本校には、1週間から1年間程度の海外留学（派遣）制度があります。留学先はアメリカ、オーストラリア、カナダ、韓国、シンガポール、タイ、中国、ドイツ、フランス等の士官学校等で、成績や語学力を考慮したうえで毎年40名以上の学生が選抜され派遣されます。本校においても諸外国との友好・親善を促進することを目的として、アメリカ、インドネシア、オーストラリア、韓国、カンボジア、シンガポール、タイ、東ティモール、フランス、フィリピン、ベトナム、モンゴル、ラオス、ミャンマー等からの留学生等を受け入れています。

2. 環境

リーダーの資質を養うための、選び抜かれた環境
Specifically optimized environment to enhance prominent leadership

施設紹介

防衛大学校は広さ約650,000㎡、東京ドーム14個分に相当する広大な敷地にあります。
緑に囲まれた教場や学生舎、図書館、グラウンドなどが整備され、充実した環境の中で学業や訓練に専念することができます。

学生舎

寝室と自習室、集会室、洗濯室など、団体生活を過ごしやすい設備が整っています。

人文科学館

LL教場などがあり、外国語や人文科学系の教育・研究が行われます。

総合情報図書館

現在所有している図書は約60万冊で、特に軍事防衛分野の図書・雑誌の充実を図っています。

理工学総合実験棟

A～E棟まであり、大型の実験装置や実習工場などがあります。

本部庁舎

防衛大学校を象徴する庁舎で、授業や校友会等に関する各種手続きの窓口があります。

学生食堂

全学生を一度に収容し、喫食することができる広く清潔な食堂です。

武道場

柔道、剣道、空手道、合気道などの武道に使用する施設です。

競技施設

陸上競技場やラグビー場、テニスコートなど、のびのびと運動ができる設備が整っています。

総合体育館

温水プールやトレーニング室もあり、体育や校友会活動が行われます。

学生の1日

防衛大学校では決められた時程に従って、規則正しい生活が送られています。学生舎では各学年2名ずつの8名で自習室・寝室の2室を使用し、将来、部隊における指揮・指導・管理などの能力向上や、自律心を養うことを目的としています。

AM 6:00 起床

AM 6:35 朝食

AM 8:00 朝礼

AM 8:10 国旗掲揚 課業行進

AM 8:30 午前授業

PM 0:00 昼食

PM 1:15 午後授業

PM 4:30 校友会活動

PM 5:15 国旗降下

PM 6:15 夕食

PM 7:45 自習

PM 10:30 消灯

課業行進

国旗掲揚・朝礼後は、班長が指揮して整列して教場へ向かいます。行進しながら部隊行動の基礎を修得します。

昼食

学生が学生食堂に集合し、一斉に昼食をとります。

自習

1日2時間の自習時間が定められています。学科成績不良で留年しないためにも、いかに集中して勉強するかが重要となります。

午前授業

内容は防衛学以外一般の大学とほとんど変わりません。ただし、授業を受けることは義務であり勝手に欠席することはできません。

校友会活動

学生は基本的に運動部に所属することとされています。学生は校友会活動を通じて、体力・気力の向上を図り、チームワークを学びます。

消灯

必要な場合は届け出て24:00まで、また適当と認めた場合は許可を受けて02:00まで消灯を延期することができます。

Q&A

Q. 私服は許されますか？

A. 状況により、私服を着用できます。

学生は定められた制服等を着用しなければなりませんが、外出を許可され、又は休暇を与えられて校外において私用で行動する場合には、私服を着用できます。ただし、第1学年は外出時においても制服を着用することが義務付けられています。

研究科

自衛隊の任務遂行に必要な高度の理論と応用についての知識や、これらに関する研究能力を修得させるための教育を行うことを目的としています。内容は、大学院設置基準の修士課程・博士課程に準拠しています。受験資格は部隊勤務を経て防衛省各機関の長が推薦した者に与えられます。

理工学研究科

前期課程

● 概要

理学及び工学に関する高度の理論と応用についての知識、これらに関する研究能力を修得させるための教育を行っています。1学年の学生数は約90名、修学年限は2年です。専攻は「電子工学」、「機械工学」、「航空宇宙工学」、「物質工学」、「情報数理」、「境界科学」及び「地球環境科学」の7専攻です。

● 学位

独立行政法人大学改革支援・学位授与機構が実施する、論文の審査と試験に合格すると、修士（理学又は工学）の学位が授与されます。

● 受験資格

防衛省各機関の長が推薦した者だけに受験資格が与えられます。推薦は幹部自衛官、又は自衛官以外の隊員で、防衛大学校を卒業した者、学校教育法による大学を卒業した者、又は文部科学大臣がこれらと同等以上の学力があると認めた者のうちから行われます。

後期課程

● 概要

装備等の開発能力を有する人材を育成するため、専門的かつ高度な研究能力及びその基礎となる学識を修得させるための教育を行います。1学年の学生数は約20名、修学年限は3年です。専攻は「電子情報工学系」、「装備・基盤工学系」及び「物質・基礎科学系」の3専攻です。

● 学位

独立行政法人大学改革支援・学位授与機構が実施する、論文の審査と試験に合格すると、博士（理学又は工学）の学位が授与されます。

● 受験資格

防衛省各機関の長が推薦した者だけに受験資格が与えられます。推薦は幹部自衛官、又は自衛官以外の隊員で、防衛大学校理工学研究科前期課程又は防衛大学校総合安全保障研究科前期課程を卒業した者及び卒業見込みの者、修士の学位を有する者及び取得見込みの者、又は防衛大学校長が修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者のうちから行われます。

総合安全保障研究科

前期課程

● 概要

社会科学の専門的学識に裏付けられた安全保障に関する幅広い視野と高度の実践的問題解決能力を養うための教育を行っています。1学年の学生数は約20名、修業年限は2年です。専攻は総合安全保障の1専攻で、この専攻の中に「国際安全保障コース」、「戦略科学コース」及び「安全保障法コース」の3つの履修コースを設けています。

● 学位

独立行政法人大学改革支援・学位授与機構が実施する、論文の審査と試験に合格すると、修士（安全保障学）の学位が授与されます。

● 受験資格

防衛省各機関の長が推薦した者だけに受験資格が与えられます。推薦は幹部自衛官、又は自衛官以外の隊員で、防衛大学校を卒業した者、学校教育法による大学を卒業した者、又は文部科学大臣がこれらと同等以上の学力があると認めた者のうちから行われます。

後期課程

● 概要

高度化・多様化した安全保障・戦略問題の最新の研究成果を踏まえ、安全保障の広い領域にわたる高度の専門的学識と実務的能力を持つ人材を養成します。1学年の学生数は約7名、修業年限は3年です。専攻は、総合安全保障の1専攻です。

● 学位

独立行政法人大学改革支援・学位授与機構が実施する、論文の審査と試験に合格すると、博士（安全保障学）の学位が授与されます。

● 受験資格

防衛省各機関の長が推薦した者だけに受験資格が与えられます。推薦は幹部自衛官、又は自衛官以外の隊員で、防衛大学校理工学研究科前期課程又は防衛大学校総合安全保障研究科前期課程を卒業した者及び卒業見込みの者、修士の学位を有する者及び取得見込みの者、又は防衛大学校長が修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者のうちから行われます。

遺伝子素材工学講義

極微細構造素子の制作室（クリーンルーム）

戦略とゲーム理論講義

移動体操縦模擬装置実験

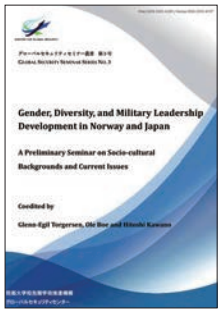
電波暗室でのアンテナ・レーダ断面積測定

先端学術推進機構グローバルセキュリティセンターの紹介

CENTER FOR GLOBAL SECURITY

2016年4月、防衛大学校にグローバルセキュリティセンター（GS）が発足しました。GSは、国際社会が直面する多種多様な安全保障課題を多角的に研究し、その研究成果を広く発信することを目的としています。
GSの特徴は、第一に、文理交叉型の統合的な研究アプローチにあります。約300名の防衛大学校教官の専門知識を総動員し、人文社会科学、理工学、防衛学による学際的な最先端研究に取り組みます。第二に、国内外の研究者と積極的に交流し、防衛大学校を安全保障研究の一大拠点として世界にアピールしていきます。
こうして学内に蓄積されていく研究成果は、最先端の知見として、学生への教育に還元されていきます。

ジェンダー・多様性・リーダーシップ開発セミナー風景



刊行物

GS研究プログラム一例

- アジア安全保障
- サイバーセキュリティー
- 宇宙安全保障
- 海洋安全保障
- 感染症対策と安全保障
- 防災・危機管理
- ジェンダー・メンタルヘルス
- ミリタリープロフェッショナリズム
- 安全保障・軍事作戦法規
- デュアルユーステクノロジー

防大GSでは、上記の10分野に焦点を当て、多様で実用的な研究を国内外の研究者と協働して積極的に進めています。
例えば、現在「大規模自然災害時における社会レジリエンス評価法と危機管理の高度化」についての大規模研究が取り組まれています。
こうした研究成果は、左側の防大GSとイスラエルオープン大学との共同セミナーにおいて、英文セミナー叢書『日本とノルウェーにおけるジェンダー・多様性・リーダーシップの開発』の発行や、右側の防大GSとスウェーデン国防研究所（FOI）との共同セミナーにおいて、英文セミナー叢書『北朝鮮におけるセキュリティ脅威の再検討』を発行するという形で世界に発信されています。

3. 進路

身につけた知識と技術で開く、確かな道
Future stable careers opened to skilled and learned graduates

キャリアアップの道
幹部候補生から幹部自衛官へ。やる気と努力で、可能性はさらに広がっていきます。

防衛大学校

幹部候補生課程教育等

曹長 → 約1年 → 3尉 → 2尉 → 1尉 → 約10年 → 指揮幕僚課程等へ入校

選抜試験等

陸自：小・中隊長 等
海自：艇長・分隊長・分隊士 等
空自：班長 等
共通：部隊等の幕僚

実員指揮能力の向上

自衛隊の学校教官　修士・博士課程（防大・一般大学）

国際平和協力活動
平和維持のために国際社会へ貢献します。

ソマリア沖・アデン湾における海賊対処（2009年）

船舶を海賊行為から護衛。

南スーダンPKO派遣（2011年）

道路等のインフラ整備など。

インドネシア国際緊急活動（2018年）

医療活動及び人員、物資輸送など。

災害派遣
国民の生命と財産を守り、被災地の復興支援を行ないます。

御嶽山噴火（2014年）

人命救助及び捜索活動など。

熊本地震（2016年）

物資の輸送支援や人命救助など。

北海道胆振東部地震（2018年）

人命救助や生活支援など。

国際的な活躍

【任務地】在ベトナム日本国大使館

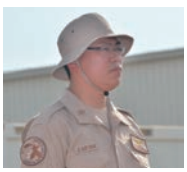
国際関係学科 卒業

防衛駐在官
1等陸佐
小澤 学

私は在ベトナム日本国大使館で、防衛駐在官として勤務しています。成長著しい東南アジアでの、外交・安全保障に携わることに、大変遣り甲斐を感じます。防衛大学校では国際標準の様々な教えを習得しました。また各国の将来を担う多くの士官候補生達と寝食を共にしました。こうして培った各国軍との強い絆が、安全保障上の財産になっています。

【任務地】ソマリア沖・アデン湾派遣

通信工学科卒業



第19次派遣海賊対処
行動航空隊
1等海尉
前田 展宏

私は、ソマリア沖・アデン湾において、整備幹部として哨戒機の整備等を担当してきました。時には50℃を超える厳しい環境の中での整備作業を行いましたが、人命を預かる航空機が無事帰ってきた時の喜びは計り知れません。このように、国内外を問わず活躍できる場が広がっているのは、防衛大学校卒業生の魅力であると思います。

【任務地】世界各国で輸送機を操縦

人間文化学科 卒業

1輸空401飛行隊
1等空尉
望月 寛子

私は、C-130H輸送機の操縦者として、フィリピンの台風被害に対する国際緊急援助活動、南スーダンPKO及びソマリア海賊対処行動への空輸任務などを実施しております。今では国内外において多くの女性自衛官が活躍しており今後は活躍の場が広がると思います。男女関係なく活躍の場が開けていることは、自衛隊の大きな魅力であると感じます。

※階級、所属は取材時のものです。

卒業後の活躍

卒業後は、陸上要員は陸上自衛官（陸曹長）に、海上要員は海上自衛官（海曹長）に、航空要員は航空自衛官（空曹長）に一般幹部候補生としてそれぞれ任命され、幹部候補生学校に入校します。その後、幹部自衛官に任命され、さまざまな職域に応じた専門教育を受け、将来は各自の能力・努力に応じて重要な地位に就くことになります。

3佐 → 2佐 → 約10年 → 幹部高級課程等へ入校 → 1佐 → 将補 → 将 → 約10年

陸自：中隊長・大隊長 等
海自：艦長 等
空自：飛行隊長 等
共通：司令部等の幕僚

指揮・統率能力の向上

海外留学　**戦史や安全保障研究職域・専門職域**

陸自：幕僚長・司令官・総監・師団長・連隊長 等
海自：幕僚長・総監・司令・艦長 等
空自：幕僚長・司令官・群司令 等

指揮・統率能力の向上

機関勤務　**防衛駐在官**

教育訓練

さまざまな立場で教育訓練に従事します。

指揮官

強い責任感と実行力で部隊を指揮。

幕僚

指揮官の補佐役を務める。

教官

各種学校などで後輩の育成に尽力。

国際交流

多くの国の人々と触れ合い、国際的な視野を広げます。

防衛駐在官

世界各国及び国際機関に駐在。

日米韓初級幹部交流

意見交換などを通して相互理解を深める。

艦艇交流

外交的役割をもつ艦艇による交流。

父兄の声

帰省のたびに実感する人間的な成長。

第233小隊
国際関係学科4学年
岡田 裕子 ご尊父

防衛大学校の団体生活の中で、人間としての謙虚さや人を思いやる気持ちなどを学んだのでしょう、娘の成長ぶりに驚いています。これからも、初心や女性らしさを忘れず、公正な判断を下せる幹部自衛官になることを願っています。

わが子を成長させた貴重な4年間。

第143小隊
地球海洋学科4学年
楠目 厚人 ご尊母

防衛大学校は厳しいというイメージが強く、不安がありました。しかし、逞しくなった顔つきや姿勢、礼儀正しさなどは、団体生活の中でこそ得られたのだと感じています。学んだことを活かし、自分らしさを忘れない自衛官になってください。

親としてできる限りの応援を。

第421小隊
情報工学科4学年
堀江 公太郎 ご尊母

息子が防衛大学校でやっていけるか心配しましたが、体つきだけでなく、所作も変わるなど会うたび成長を感じています。
将来は、多くの人に信頼される自衛官になってください。あなたならできるから努力し続けなさい。応援しています。

団体生活で培われた人を思いやる気持ち。

第413小隊
機械システム工学科4学年
森 洋輔 ご尊母

一年生の頃、帰ってきては学校生活の厳しさと、仲間と協力し乗り越えている話を聞き逞しさを感じました。団体生活の中で、人を思いやる気持ちも大きく成長したと思います。
将来は、皆を支えられる自衛官になることを願っています。

※学年は取材時のものです。

4. 仲間

絆を深め、喜びを分かちあう、かけがえのない仲間

Comrades made through various year-round activities in the lives of the academy

年間行事

4月	●入校式　●カッター競技会(2学年) ●春季定期訓練等(全学年)
5月	●オープンキャンパス
6月	
7月	●夏季定期訓練(全学年)　●遠泳(1学年) ●オープンキャンパス
8月	●夏季休暇　●水泳競技会
9月	
10月	●前期定期試験　●秋季定期訓練(1学年)
11月	●開校記念祭
12月	●冬季休暇　●冬季定期訓練(3学年)
1月	●スキー訓練(2学年)
2月	●後期定期試験
3月	●断郊競技会(3学年)　●進級前訓練(3学年) ●卒業前訓練(4学年)　●持続走競技会(4学年) ●卒業式　●春季休暇

防衛大学校では年間を通してさまざまな行事が行われ、学生全員が参加します。「学び、鍛え、親睦を深める」をモットーとする多彩な行事が有意義な学生生活をサポートし、毎日をよりいっそう豊かなものにしています。

入校式

カッター競技会

遠泳

開校記念祭

スキー訓練

卒業式

校友会活動

校友会とは、いわゆるクラブ活動のことです。スポーツと文化の両分野での活動を通じて友情を育み、気力・体力の向上と連帯感の養成を目指します。また、その多くが大学リーグなどに加盟しており、他大学との交流も積極的に行っています。

運動部等

応援団リーダー部
短艇委員会
バスケットボール部
柔道部
ラグビー部
サッカー部
剣道部
空手道部
バレーボール部
卓球部
陸上競技部
硬式庭球部
硬式野球部
射撃部
山岳部
水泳部
ハンドボール部
アメリカンフットボール部
ヨット部
銃剣道部
グライダー部
ソフトテニス部
ボクシング部
レスリング部
ポート部
フィールドホッケー部
ワンダーフォーゲル部
パラシュート部
準硬式野球部
合気道部
体操部
弓道部
少林寺拳法部
フェンシング部
ウェイトリフティング部
相撲部
バドミントン部
居合道部
儀仗隊
吹奏楽部
自転車競技部

陸上競技部

女子フィールドホッケー部

ラグビー部

文化部等

新聞委員会
雑誌委員会
アカシア会(社交ダンス)
放送委員会
茶道部
弁論部
英会話部
写真委員会
棋道部
音楽部
軍事史研究部
軽音楽部
国際関係論研究部
古典ギター部
自動車同好会
美術同好会
文芸同好会
韓国文化研究同好会
紅太鼓同好会
インドネシア文化研究同好会
ベトナム文化研究同好会
モンゴル文化研究同好会
ダンス同好会
フィリピン文化研究同好会
コンピュータ研究同好会
カンボジア文化研究同好会
東ティモール文化研究同好会
ダイビング同好会
伝統文化研究同好会
ジャズ同好会
スキー同好会
ピアノ同好会
タイ文化研究同好会
ミャンマー文化研究同好会

紅太鼓

アカシア会

令和2年度受験案内

採用種目	防衛大学校学生 推薦	防衛大学校学生 総合選抜	防衛大学校学生 一般
応募資格	18歳以上21歳未満の者 高卒者(見込含)又は高専3年次修了者(見込含)で成績優秀かつ生徒会活動等に顕著な実績を修め、学校長が推薦できる者	18歳以上21歳未満の者(自衛官は23歳未満) 高卒者(見込含)又は高専3年次修了者(見込含)	
受付期間	9月5日(土)～9月11日(金)		7月1日(水)～10月22日(木)
試験期日	9月26日(土)・27日(日)	1次:9月26日(土) 2次:10月31日(土)・11月1日(日)	1次:11月7日(土)・8日(日) 2次:12月8日(火)～12日(土)
合格発表	10月30日(金)	1次:10月16日(金) 最終:11月25日(水)	1次:11月25日(水) 最終:1月22日(金)
入　校	令和3年4月上旬		

処　遇

身　　分：特別職国家公務員

手　　当：学生手当　月額117,000円(令和2年1月1日現在)※
※学生手当については、法律の改正により改定されることがあります。

期末手当：年2回(6月、12月)

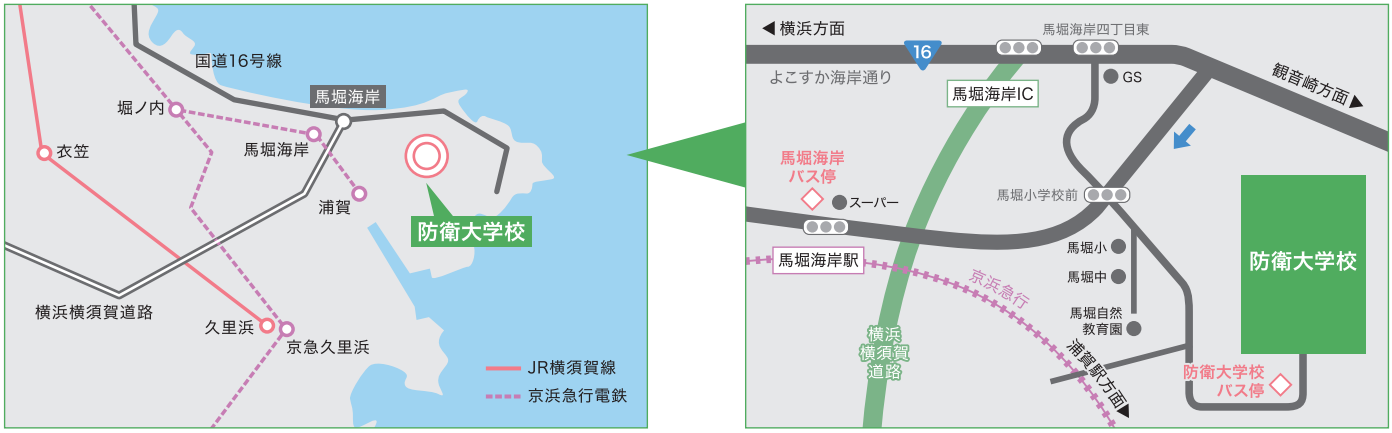
衣 食 住：全員が学生舎で生活し、宿舎は無料。
食事・被服類・寝具については支給または貸与。

休日・休暇：週休2日制、祝日、年末年始特別休暇等

医療施設：自衛隊病院、学校医務室

福利厚生：防衛省共済組合
貯金事業/普通・定額積立・定期貯金
貸付事業/普通・特別・住宅・財形など
物資販売事業/売店・展示即売会

アクセス



〒239-8686　神奈川県横須賀市走水1丁目10番20号　046-841-3810(代表)

電車をご利用の場合

●京浜急行電鉄「馬堀海岸駅」下車、
京浜急行バス「防衛大学校」行き約6分、または徒歩約25分

●JR横須賀線「横須賀駅」下車、
京浜急行バス「防衛大学校」行き約30分

自動車をご利用の場合

●横浜横須賀道路
「馬堀海岸インター」降車、約5分

防衛大学校見学　防大ツアー

ふだんは見ることのできない、防衛大学校のキャンパスを見学いただけます。ツアー係案内のもと、卒業式の帽子投げで有名な「記念講堂」などを見学いただけます。午後の見学では「学生の行進」がご覧になれます(都合により行わない場合もあります)。
ご希望の方は入試説明(3月末～8月末)も承ります。

開　催　日：月曜日(午後)、水曜日(午前・午後)、金曜日(午後)(祝日を除く)

見学時間など：午前の部／受付時間 9:20～9:30　見学時間 9:30～11:20
午後の部／受付時間 12:10～12:20　見学時間 12:20～14:20

見学のお申込み・ご予約など詳しくは

防衛大学校総務課社会連携推進室広報ツアー係

TEL:046(841)3810(内線:2019)

インターネットはこちらから

https://www.mod.go.jp/nda/

携帯電話・スマートフォンで右のQRコードを読み込んでホームページにアクセスしてください。▶

情　報

ご質問・お問い合わせはお近くの
自衛隊地方協力本部にご連絡ください。

■自衛隊地方協力本部一覧

	電話番号	所在地		電話番号	所在地
札幌	011(631)5472	札幌市中央区北4条西15丁目1	愛知	052(331)6266	名古屋市中川区松重町3-41
函館	0138(53)6241	函館市広野町6-25	三重	059(225)0531	津市桜橋1丁目91
旭川	0166(51)6055	旭川市春光町国有無番地	滋賀	077(524)6446	大津市京町3-1-1　大津びわ湖合同庁舎5F
帯広	0155(23)5882	帯広市西14条南14丁目4	京都	075(803)0820	京都市中京区西ノ京笠殿町38　京都地方合同庁舎3F
青森	017(776)1594	青森市長島1丁目3-5　青森第2合同庁舎2F	大阪	06(6942)0543	大阪市中央区大手前4-1-67　大阪合同庁舎2号館3F
岩手	019(623)3236	盛岡市内丸7番25号　盛岡合同庁舎2F	兵庫	078(261)8600	神戸市中央区脇浜海岸通1-4-3　神戸防災合同庁舎4F
宮城	022(295)2612	仙台市宮城野区五輪1丁目3-15　仙台第3合同庁舎1F	奈良	0742(23)7001	奈良市高畑町552　奈良第2地方合同庁舎1F
秋田	018(823)5404	秋田市山王4丁目3-34	和歌山	073(422)5116	和歌山市築港1丁目14-6
山形	023(622)0712	山形市緑町1-5-48　山形地方合同庁舎1・2F	鳥取	0857(23)2251	鳥取市富安2-89-4　鳥取第1地方合同庁舎6F
福島	024(546)1920	福島市南町86	島根	0852(21)0015	松江市向島町134-10　松江地方合同庁舎4F
茨城	029(231)3315	水戸市三の丸3丁目11-9	岡山	086(226)0361	岡山市北区下石井1-4-1　岡山第2合同庁舎2F
栃木	028(634)3385	宇都宮市桜5丁目1-13　宇都宮地方合同庁舎2F	広島	082(221)2957	広島市中区上八丁堀6-30　広島合同庁舎4号館6F
群馬	027(221)4471	前橋市南町3丁目64-12	山口	083(922)2325	山口市八幡馬場814
埼玉	048(831)6043	さいたま市浦和区常盤4丁目11-15　浦和地方合同庁舎3F	徳島	088(623)2220	徳島市万代町3-5　徳島第2地方合同庁舎5F
千葉	043(251)7151	千葉市稲毛区轟町1丁目1-17	香川	087(823)9206	高松市サンポート3-33　高松サンポート合同庁舎南館2F
東京	03(3269)3513	新宿区市谷本村町10-1	愛媛	089(941)8381	松山市三番町8-352-1
神奈川	045(662)9429	横浜市中区山下町253-2	高知	088(822)6128	高知市栄田町2-2-10　高知よさこい咲都合同庁舎8F
新潟	025(285)0515	新潟市中央区美咲町1丁目1-1　新潟美咲合同庁舎1号館7F	福岡	092(584)1881	福岡市博多区竹丘町1丁目12番
山梨	055(253)1591	甲府市丸の内1丁目1番18号　甲府合同庁舎2F	佐賀	0952(24)2291	佐賀市与賀町2-18
長野	026(233)2108	長野市旭町1108　長野第2合同庁舎1F	長崎	095(826)8844	長崎市出島町2-25　防衛省合同庁舎2F
静岡	054(261)3151	静岡市葵区柚木366	大分	097(536)6271	大分市新川町2-1-36　大分合同庁舎5F
富山	076(441)3271	富山市牛島新町6-24	熊本	096(297)2051	熊本市西区春日2丁目10-1　熊本地方合同庁舎B棟3F
石川	076(291)6250	金沢市新神田4丁目3-10　金沢新神田合同庁舎3F	宮崎	0985(53)2643	宮崎市東大淀2-1-39
福井	0776(23)1910	福井市春山1丁目1-54　福井春山合同庁舎10F	鹿児島	099(253)8920	鹿児島市東郡元町4番1号　鹿児島第2地方合同庁舎1F
岐阜	058(232)3127	岐阜市長良福光2675-3	沖縄	098(866)5457	那覇市前島3丁目24-3-1

防衛大学校オープンキャンパス

例年、5月・7月に実施され、事前予約は不要です。

学科・訓練・学生生活に関するプログラムとして下の内容以外にも「学科及び教育室紹介」、「実験室の公開」、「訓練相談」、「校友会紹介」、「総合情報図書館見学」、「資料館見学」、「第2種パレード訓練見学（5月のみ開催）」をご用意しております。
防大生の生活環境、活動状況等を実際にご覧いただくことができます。
学生及び教職員一同、皆様のお越しを心よりお待ちしております。

防大概要説明

来場者の感想

厳格なイメージがあったが、説明を聞いて一般の大学と変わらないところも多くあると感じた。

個別（入試）相談

来場者の感想

不安に思っていたことを聞くことができ、わかりやすく説明していただいて納得できました。

模擬授業

来場者の感想

海外での実体験の話を聞くことができ、とても良かった。

訓練説明

来場者の感想

訓練についていけない心配があったが、しっかりと対策してくれるので厳しくてもやる気次第で向上できると感じた。

学生舎見学

来場者の感想

少ない持ち物で整理整頓されていて驚きました。

学生との懇談

☆海外留学（派遣）経験者の話も聞けます。

令和3年度入校

防衛大学校

National Defense Academy

受験案内

最新情報はホームページでご確認ください。
また、インターネット応募サイトからも応募できます。

自衛官募集　検索

https://www.mod.go.jp/gsdf/jieikanbosyu/

スマートフォン・携帯電話はこちらから ▶

募集コールセンター　365日 年中無休　受付時間12:00～20:00

守ろうみんなの国

0120-063792

jieikanbosyu@bellwell.com

お問い合わせは下記の自衛隊地方協力本部へ